



タケナカキカイ株式会社

2022 年度 環境経営レポート

対象期間 2022年1月21日～2023年1月20日



認証番号0013123

作成日： 2023年2月21日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	3
環境経営方針 整理整頓、エネルギーの削減を 目指す。	3
組織の概要 タケナカキカイ(株)、吹田市、金属加工用機械と金型の販売。年商35000万円	4
事業・製品の紹介 ワイヤカット、マシニングセンター、マルチフォーミングマシン、プレス、及び金型の販売	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画	7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	10
緊急事態対応訓練	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	11
これまでの環境活動の紹介	11

商品紹介： SF-150型・・・機械駆動/ボモータ化され段取り替え時間が短縮された。



□ごあいさつ

ご挨拶 弊社は、前社長竹中洋一が1987年(S62年)20年間勤めた機械工具商社を円満退職し、1名で独立し、タケナカキカイを創業しました。不景気のどん底での操業でしたが、不安はありませんでした。年商5000万円ほどからのスタートでしたが、2年ほどで、2億ほどの年商になり、3年で3億になりその後、3～4億で安定するようになりました。特徴は金属プレス及び工作機械の販売で、特に板ばね関係のフォーミングマシンを得意としております。工作機械は、特に金型製造用機械です。販売先は、金属部品の(電子部品、家電部品、)プレス加工を行っている企業様です。時代とともに電子部品、家電部品の加工から、自動車用金属部品、リチウム電池部品へと、対象が変わっていきましたが、販売機械は変わらず、フォーミングマシンとプレス、金型用工作機械です。2019年12月に新しく事務所が竣工し、これを契機に、心機一転点堅実に邁進するためエコアクション21活動に取り組み、社会に貢献してゆく所存です。

環境経営方針

<環境経営理念>

エコアクション21を取得し、近隣の環境も含め、社内の環境を正し、会社の経営を安定することで、永続的に社会に貢献する。
、本業である機械販売を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

お客様に喜んでいただける商品を効率よく、無駄なく、タイムリーにお客様に提供することが当社が一番の環境対策と考えて、従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

<環境保全への行動指針>

- 1 . 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2 . 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 3 . 廃棄ロスをなくす等廃棄物の発生抑制につとめます。
- 4 . 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
- 5 . 環境に配慮した製品をお客様にお届けします。

制定日：2022年6月12日

代表取締役社長 竹中 隆二郎

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
タケナカキカイ株式会社
代表取締役社長 竹中 隆二郎
- (2) 所在地
本 社 大阪府吹田市寿町2丁目13番21号
淡路倉庫 大阪府大阪市3台丁目1番8号
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 代表 竹中 隆二郎 TEL：06-6319-0012
担当者 営業部 竹中 隆二郎 TEL：06-6319-0012
- (4) 事業内容
鍛圧機械、工作機械、順送金型、フォーミングマシン、フォーミング金型
、CAD/CAMの販売
- (5) 事業の規模
売上高 25,428 万円
- | | 本 社 | 合計 |
|----------------------|-------------------|-------------------|
| 従業員 名 | 5名 | 5名 |
| 延べ床面積 m ² | 120m ² | 120m ² |
- (6) 事業年度 2022年 1月21日～2023年1月20日

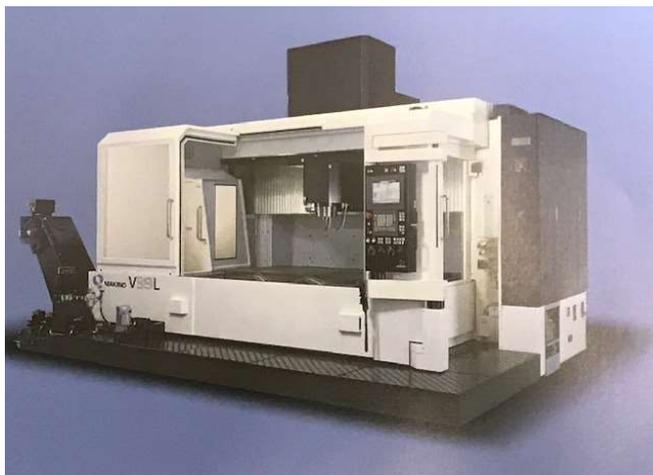
□認証・登録の対象組織・活動

- 登録組織名： タケナカキカイ株式会社
対象事業所： 本 社
淡路倉庫
活動： 鍛圧機械、工作機械、順送金型、フォーミングマシン、フォーミング金型
、CAD/CAMの販売

□事業や製品(商品)の紹介

主事業： 工作機械販売・プレス販売・フォーミングマシン販売

商品の紹介：自動車部品・電子部品などの金属製品を成形・製作する為に必要な鍛圧プレス機や、プレス成形に必要なプレス金型を製作する為の工作機械、マシニングセンタ、ワイヤーカット放電加工機、がございます。金型、プレートの平面を研削する平面研磨機、金型部品、小物を成形させる成形研磨機、丸物、シャフトを旋削する汎用旋盤などが御座います。またそれら加工物を寸法測定する3次元測定器、プレス製品を寸法測定する画像顕微鏡なども対応しています。

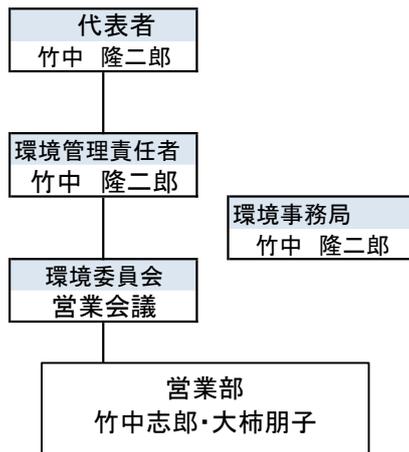


基本性能を革新させた ワイヤカットEDM



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2022年1月29日



役割・責任・権限	
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し、指示 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
環境委員会 (営業会議)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営計画の審議 環境活動実績の確認・評価
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2020年	2021年	2022年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	17,657	18,738	17,338
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	トン	670	650	655
産業廃棄物排出量	トン	0	0	0
水使用量	m ³	76	65	64

※二酸化炭素排出係数 0.418 kg-CO₂/kWh (関西電力のH29実績調整後係数)

※二酸化炭素総排出量には、電力・都市ガス・自動車燃料に灯油を含む。

□環境経営目標及びその実績

項目	年度	基準値 (基準年)	2022年		評価	2023年	2024年
			上段:	通期		(目標)	(目標)
			(目標)	(実績)			
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,931	1,893	2,250	×	1,854	1,835
	基準年度比	2021年	98%	117%		96%	95%
	原単位	kWh/千円	0.018	0.018	0.030	×	0.017
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	482	472	417	○	462	458
	基準年度比	2021年	98%	87%		96%	95%
	原単位	m ³ /千円	0.001	0.001	0.001	×	0.001
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	15,700	14,915	14,522	○	14,915	15,072
	基準年度比	2021年	95%	92%		95%	96%
	上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	18,113	17,279	17,189		17,231
一般廃棄物の削減	kg	650	605	654	×	605	585
	基準年度比	2021年	93%	101%		93%	90%
	水道水の削減	m ³	65	62	64	×	60
	基準年度比	2021年	95%	98%		92%	90%
環境に配慮した販売活動	行動目標(次項による)						
課題を解決しチャンスを活かす取組	行動目標(次項による)						

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

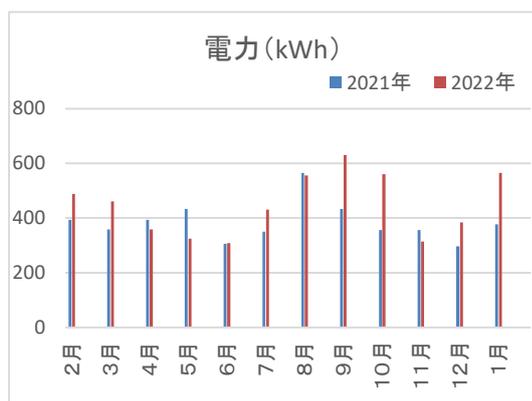
数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	コロナ禍を基準としたとき、電力使用が増えてしまったが、止む負えないと思います。次年度は改善に努めたいと考えます。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・不要照明の消灯	△	
・コピー機などのOA機器は省電力設定する。	×	
夜間、休日は、PCなどの主電源を切る。	○	

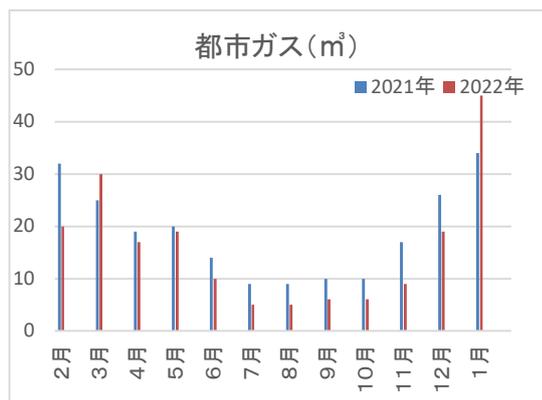
取組紹介欄

- ① 事務所の最後の退社者が、電気完全消灯をした事を上司・部下へ電話・メールで報告する。
- ② 休日は社名の電灯看板を必ず消灯する。
- ③ 玄関の外照明は、原則として必要時以外は消灯。



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
2021年	393	359	393	433	306	350	565	433	357	357	296	377
2022年	489	462	359	324	308	430	556	631	560	314	384	566

都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	ガスの需要が減少している。このまま、ガスを使用しないようにすることを、習慣づけたい。
・温水温度の適正化	○	
・ガスストーブに使用を極力控える。	△	

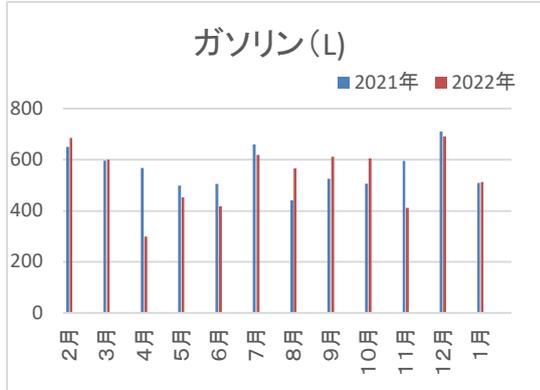


取組紹介欄

- ① 温水温度を、30度に設定する。
- ② 水を沸かさない。

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
2021年	32	25	19	20	14	9	9	10	10	17	26	34
2022年	20	30	17	19	10	5	5	6	6	9	19	45

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	全体で約5パーセントの削減が出来る。コロナ問題が解決していく世の中の流れと考えている。コロナ以前の世の中になるとガソリンの消費量はどうしても、増えていくことになる。必要な事はエコ運転と営業ルートの見直しを心掛けていくことが、エコアクション活動の精神となっていると感じている。
・アイドリングストップ	○	
・効率的なルートで配送	○	
・エリア別営業活動の見直し	△	

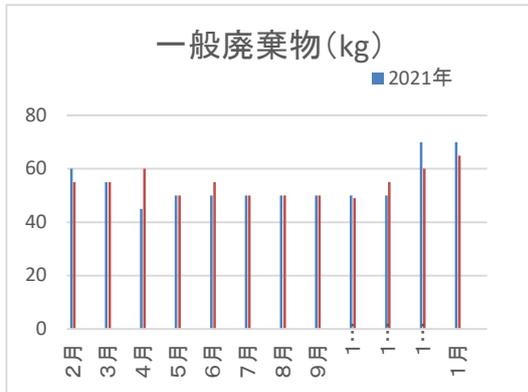


取組紹介欄

- ① 営業道路ルートの見直し、訪問順番の見直し。
- ② アクセルの、急な踏込は禁止。
- ③ 急停止・急発進はしない。
- ④ ハイブリッド車は、電池パワーを効率よく蓄電する運転を心がける事。

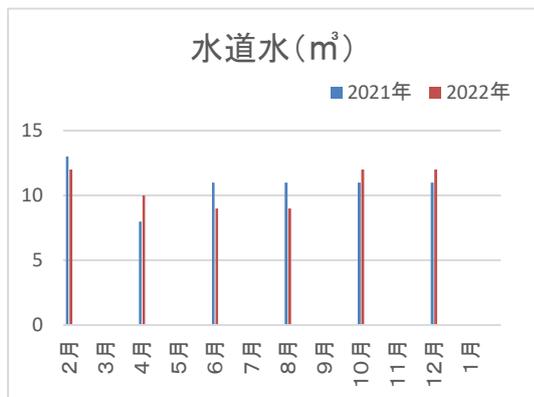
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
2021年	650	597	567	500	505	660	442	525	506	595	710	510
2022年	686	601	299	453	417	619	567	612	606	411	691	513

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	年間では0.6パーセント、ごくわずかだが上昇になった。来年度はわずかでも削減になればと、取り組んでいく。
・分別の徹底	○	



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
2021年	60	55	45	50	50	50	50	50	50	50	70	70
2022年	55	55	60	50	55	50	50	50	49	55	60	65

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	2パーセントの削減が達成している。わずかではあるが削減していければ達成感がでる。
・ 節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・ トイレの使用時 小	○	



取組紹介欄

- ① トイレの流す水は、出来るだけ『小』を使う。
- ② 節水蛇口を設置する。

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
2021年	13	0	8	0	11	0	11	0	11	0	11	0
2022年	12	0	10	0	9	0	9	0	12	0	12	0

環境に配慮した販売活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
省エネ製品の販売	○	工作機械業界は、省エネ・油圧レスが浸透している。半導体問題にて納期の回復が進めば、省エネ商品はまだまだ進んでいくことが間違いない。

取組紹介欄

- ① マシニングや平面研磨機などの、切削油ポンプにインバータを取付ける。パラメータ操作にて、稼働時間により高速・中速・低速 のモータ回転を制御させ、過負荷のバランスがとれたものにする。
- ② サーボモータプレスの販売見積を日頃より推進しています。AMADA社『SDEシリーズ』、AIDA 社 ダイレクトサーボフォーマ『DSFシリーズ』、
- ③ サーボモーター平面研磨機の販売推進をしています。 黒田精工社 GS-PFⅡシリーズ
- ④ 三菱電機の高効率省エネモーター SF-PRシリーズの販売促進。
- ⑤ サーボモータを使用したNCフォーミングマシン、(ティーエスプレジジョン製)の販売促進。

課題を解決しチャンスを活かす取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
事業再構築補助金での申請資料の作成	○	本年度はコロナ前の売り上げ金額に戻りました。来年度も引き続き努力を惜しまずに進んでいく。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	収集運搬業、中間処理業、産業廃棄物（廃プラ、廃ガラス、廃油等）

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

この1年間ありませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定：火災の発生	
■実施日：2022年2月4日	■実施場所タケナカキカイ(株) 本社
■参加者：竹中隆二郎 竹中志郎 大柿朋子	
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 通報訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練 火災時に何所に通報し、避難ルートの確認、非常口の確認を行いました。	
■評価：	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
非常時の避難場所の確認、寿町公民館の場所までの避難ルート確認を実施。消火器の点検を行った。	
■実施状況の様子	
	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2023年2月20日

今年度の売上金額はコロナ以前に戻り回復傾向の見える年度となりました。コロナ渦も解消しつつあり2022年は経済回復の兆しと見られた。やはり経済回復していくと活動も活発になり、二酸化炭素の排出量も増えていくと思われていたが、売上金額に関係なく二酸化炭素排出量は22年度は21年度より7.5%削減ができました。次年度2023年に入り、さらなる材料価格の高騰・半導体不足による機械設備の納期長期化の影響もあるので業績への悪影響化が懸念されるが、本年度の実績から判断すると、弊社は二酸化炭素排出量の削減には会社の業績とあまり影響しないと見え、各自、エコドライブや節電・節水・節約ガスを意識していきたい。来年度からは燃費効率を記録し、その基準をとらえ、さらなる向上をさせたい。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

プラごみ削減活動



エコドライブ活動



□編集後記

環境問題に、少しずつ意識をしてきている雰囲気があります。各自、もっと意識をすれば、良い結果が得られると感覚的には思いますが、どのように意識を引き出すかの工夫が必要と思います。来年度はそのあたりを、変化させて実践していくとよいと感じています。